

3. 今後の災害に備えるための課題

- (7) 職員の災害対応の経験や知見を組織の知恵とする取り組みを継続的に実施する。
- (8) 避難所運営の主体・手順の検討を関係者間で実施する。
- (9) 人的支援が必要な事態となった時に、ボランティアセンターを核として安平町が関係機関と調整できるような体制を平時から構築する。
- (10) 北海道胆振東部地震で醸成された自助・共助・公助の役割分担意識を忘れず、今後の安平町の一層の防災力向上を目指すための防災教育・防災訓練が必要である。
- (11) 北海道胆振東部地震の教訓をもとに、防災会議により実効性をもたせ、災害時の事業継続について各関係機関・団体と協議する。



自衛隊による入浴支援

4. 未来にむけた安平町の課題

- (12) 北海道胆振東部地震を経験した児童・生徒の想いを反映し、安平町への支援の感謝と復興の現状を町内外に発信する。



笑顔プロジェクト報告会



震災後に再建された福祉施設
(追分陽光苑)

2. 検証方法と検証結果概要

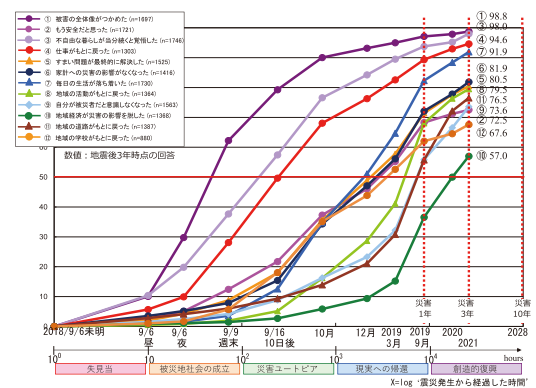
本検証を行うために実施した各調査の検証分析結果について、調査ごとに記載がされています。

1. 生活復興調査

1995年の阪神・淡路大震災、2004年の新潟県中越地震、2011年の東日本大震災の被災地において、被災者の生活復興を測るために継続的に実施されてきたアンケート調査を参考に調査設計が行なわれ実施。

18才以上の安平町民に全数調査を実施し、その分析結果を検証。平成30年北海道胆振東部地震における安平町の「被災者が思う復興の進捗」を知るための指標として、復興カレンダー、家計、からだところのストレス、まちの復興スピード、次の災害へのそなえ、支援者、自助・共助・公助の役割分担、復興まちづくり計画等の調査項目についての調査結果が取りまとめられています。

【安平町生活復興調査 調査チーム（安平町胆振東部地震検証本部会、新潟大学、富山大学、兵庫県立大学）により実施】



(分析結果記載の例)

安平町民が感じた復興カレンダー